

普及活動情勢報告（平成27年10月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

加工品の販路拡大に取り組んでいます ～6次産業化支援チーム会～



レクチャー中

J A高知春野の「はるちゃんのアイス屋さん」は、事業を活用して6次産業化サポートセンターのアドバイザーから支援・助言を受けながら販路拡大を目指しています。普及所はJ Aや地域支援企画員の協力を得てチーム会を結成し、この活動を支援しています。

9月8日は飲食店への業務用アイスの営業活動に取り組みました。アドバイザーから店舗の下見、営業日時のアポイント、営業用トークなどのレクチャーを受けながら営業活動を実践し、その結果、見事に注文を取ることができました。

今後も普及所はチーム会で話し合いながら課題解決に取り組んでいきます。

グロリオサで防虫ネットの有用性を検討 ～自主企画研修～



グロリオサを見る普及員

9月30日、J A高知市三里管内で、花きのI PM技術普及に向けた自主企画研修（各農業振興センター部門担当者等が自ら解決する課題を取り決めて行う研修）を開催しました。防虫ネットを張ったハウスと慣行ハウスの温度比較調査結果や、防虫ネットによる品質への影響、暑さ対策の必要性等について、普及性の検討や情報交換を行いました。今後、普及所ではこの研修を通じ、花き農家にとって有用な技術の情報共有を行い、県下全体の花きI PM技術の普及に向けて取り組んでいきます。

集落営農の取り組みを進めよう ～高知市集落営農研修会（第2回）の開催～



普及員からの説明

10月5日に高知市中山間地域構造改善センター（高知市鏡）、10月9日に高知農業改良普及所の2会場で集落営農研修会を開催し、両会場で16名の農業者が参加しました。

普及所からは、集落営農の取り組みの必要性や集落組織のタイプ別の特徴、話し合いの進め方等について説明を行いました。また、5日の研修会では、中山間での事例として、梅ノ木ファームの取り組みを組合長から説明をいただきました。

参加者からは、「集落営農の取り組みは必要」、「高齢化も進んできており、取り組みができるか不安」等の意見が出されました。

普及所では、引き続き研修会の開催等で集落営農の推進に取り組んでいきます。

今作の生育は??? ～ショウガの出荷検討会を開催～



検討会の様子

10月9日、J A高知市丸朝生姜生産組合が出荷検討会を開催し、42名の生産者が出席しました。

検討会では、今年作の生育概況や県外産地の生育状況、出荷に関する協議が行われました。普及所からは、貯蔵中のショウガ腐敗対策のポイントについて説明をしました。生産者から貯蔵中の袋の種類等の質問があり、腐敗対策についての意識が高くなっています。

近年は、病害の発生等で収穫量が少ない状況が続いています。普及所は生育状況等を把握して安定出荷に向けての支援を行っていきます。

キュウリの定植後の管理徹底を ～J A高知春野キュウリ現地検討会～



定植後の管理を検討

10月15日にJ A高知春野弘岡上地区で生産者10人の参加で、「定植後の管理」についての現地検討会を行いました。参加者から少雨で昼夜の温度差のある気象条件での、灌水管理や葉色の見定め等の質問があり、その返答や「ハウス内温度を保つことが大切」、「乾燥したハウス内はうどんこ病対策が必要」等の指導を行いました。

普及所からは省力的で経費削減ができ、防除効果が高い天敵の利用方法を説明しました。今後は、天敵効果の調査と結果の取りまとめを行い、さらなる利用推進を行っていきます。

今年もカイランサイの収穫が始まります ～全戸ほ場巡回～



生育状況を見る関係者

J A高知市東部露地野菜部会では、水稻の裏作の有望品目としてカイランサイの産地づくりを行っています。10月19日に普及所とJ Aとで全戸ほ場巡回を行い、定植後の生育状況を確認しました。

ほ場によっては定植以降の晴天続きの乾燥で生育の遅れや低温での早期出蕾等の問題が生じ、対策として通路への湛水や「株の先端にできる頂花蕾を除き、側枝を太くする」等の指導を行いました。

普及所は今後も目慣らし会・現地検討会を行って、頂花蕾の収穫方法やそれ以降の栽培管理について、助言指導を行っていきます。